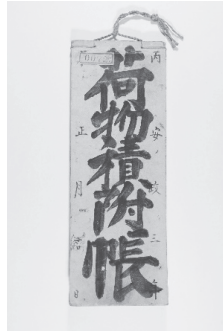


白鹿記念酒造博物館所蔵品の一例

(p. 5～16『幕末期上方酒造家の廻船所有』参照)

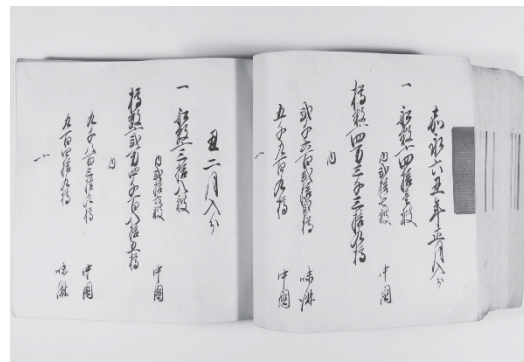
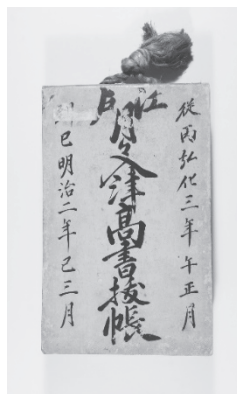
1. 荷物積附帳 (p. 9 注 28 ご参照)

辰屋吉左衛門家が江戸へ酒を出荷する際に利用した樽廻船の情報が記されている。



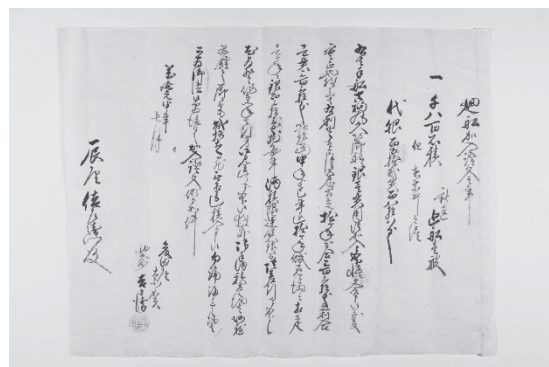
2. 江戸月々入津高書抜帳 (p. 6 注 16 ご参照)

幕末期の江戸へ入港する樽廻船の樽数・艘数が月別に記載されている。



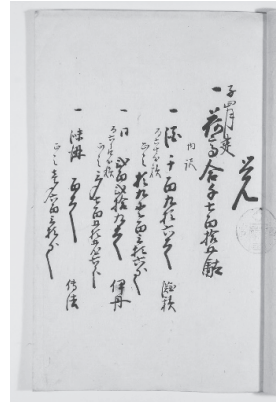
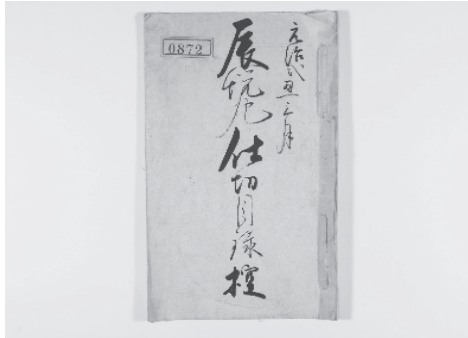
3. 廻船加入證文 (七福丸) (p. 5 注 3 ご参照)

万延元年7月に藤田屋なかが船主となって建造された七福丸に、辰屋吉左衛門が銀1貫目を出資した旨が記されている。



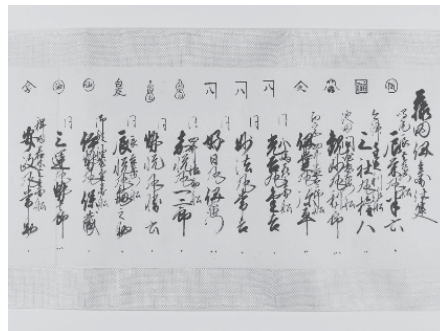
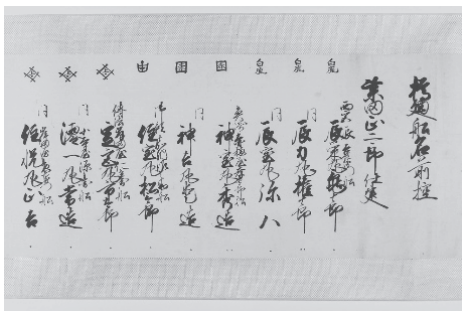
4. 辰悦丸仕切目録控 (p. 10 注 35 ご参照)

辰屋吉左衛門所有廻船の内、辰悦丸が運んだ酒・味醂・荒物・藍玉といった積荷の種類や量、運送にかかる運賃が記されている。



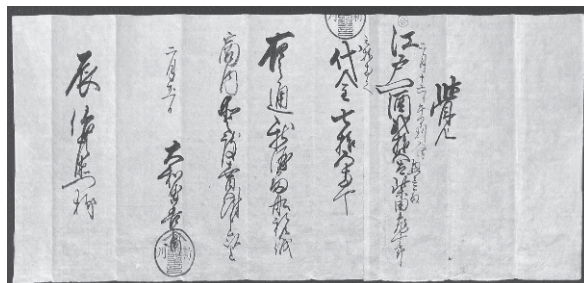
5. 樽廻船名前控 (p. 9 第 3 章ご参照)

元治元年 3 月時点で、大坂・西宮の各廻船問屋に所属する樽廻船名・船頭名・船主名が記されている。辰屋吉左衛門所有廻船は、柴田正二郎の下に辰栄丸・辰力丸・辰宝丸、藤田伊兵衛の下に辰悦丸が記されている。



6. 覚 (p. 10 注 31 ご参照)

元治元年に行われた新酒番船競争で、辰屋吉左衛門所有廻船である辰栄丸(船頭亀十郎)が惣一番となり、積まれていた江戸一銘柄の酒 25 駄を総額 75 両で販売した旨が記されている。



なお、現在、1 月 13 日まで、また、1 月 25 日から 3 月 5 日の期間で、下記にて「美酒運ぶ樽廻船」と題して、今回の論文で使用した史料等が展示されています。5 月 25 日までは写真展「大海原へ！辰馬汽船」も開催しております。ぜひお立ち寄りください。

白鹿記念酒造博物館

〒662-0926 西宮市鞍掛町 8-21 TEL：0798-33-0008 <https://www.hakushika.co.jp/museum/>